様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０２４９９

研究課題名（和文）主要部後置型言語におけるアスペクトとヴォイスの「自然な言い回し」に関する研究

研究課題名（英文）On "Fashions of speaking" of Aspect and Voice in head-final Languages

研究代表者
副島　健作（Soejima, Kensaku）

東北大学・高度教養教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：６０３４７１３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では，まず日本語と韓国語やエストニア語のパラレルコーパスを作成した。複数言語間で意味内容がほぼ等しいと考えられる文について対応関係が付いている対訳コーパスである。日本語から多言語語へ翻訳されたもの2作品，ロシア語から日本語へ翻訳されたもの1作品の計3作品の小説を完全に電子化した。次に，コーパスを資料として，当該言語の人為的事態を表す結果表現について，同一場面での構文の選択という観点から分析した。また，上級日本語学習者にそれらの表現の使用意識調査を行った。その結果をもとに，客観世界に対する事態認識の差異について考察し，日本語が事態を主観的に把握する傾向にあることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究課題において日韓露語パラレルコーパスを資料として行った検証の結果，動作主不定の人為的事態の結果を表すという同一場面におけるロシア語と韓国語と日本語の構文選択の傾向を明らかにした。この結果は，「言語の自然さ」，「～語らしさ」が認知類型の違いで説明できる可能性を示唆するものであり，認知類型論の発展に資するものと言える。
　コーパスによる言語研究は盛んに行われているが，3言語以上にまたがる多言語のパラレルコーパスはまだまだ希少であり，日本語，ロシア語，韓国語，エストニア語のパラレルコーパスを独自に構築できたことは，今後の対照言語学的研究をはじめ類型論的研究など言語研究に供する資料となり得る。

研究成果の概要（英文）：In this study, we first created the multilingual parallel corpus based on the text of novels. In total 3 corpora were done: 2 from Japanese text and 1 from Russian text. It has been specifically formatted for a side-by-side comparison.
　This study considers the question of how we express intentional events involving an agent that is unspecified or unimportant. To answer this question, data were collected from the above-mentioned parallel corpora. We then tried to analyze that data in detail to elucidate why these differences occur. In addition, we examined a questionnaire survey of Japanese advanced learners' usage tendency of constructions in the same scene. The differences between Japanese, Russian and Korean lie in the different ways of construal for each language, that is, whether or not a speaker conceptualizes and depicts events subjectively from the view point of the patient. The results of the study show that Japanese is a language with a high degree of subjectivity.

研究分野：言語学　日本語教育

キーワード：アスペクト・ヴォイス　自然な言い回し　主要部後置型言語　認知類型論　パラレルコーパス

１．研究開始当初の背景

昨今の外国語教育では学習者中心の指導，つまり正確さ重視の教育からコミュニケーション活動の成功を重視した教育の必要性が問われるようになってきた。そこでは，誤解を与える表現，感情を害する誤用をいかに避けるか，自然な言い回し，日常違和感なく用いられる表現をいかに身につけるかが課題となる。いずれも母語話者の言語感覚と密接に結びついている事象であり，これらを理論化し，外国語教育に応用することが強く求められている。とくに国際競争力強化の需要が高まりつつある現代社会においては，外国語教育の質の向上は必須であり，言語の「自然さ」,「～語らしさ」の追求はすぐにでもとりかかなければならない課題と言える。

以上のように，現在の言語教育においては「好まれる言い回し」を理論化し，記述することが求められる。誰かが財布を盗んだことを「財布を盗まれた」と受身構文で言うのが日本語では自然であるが，英語では Someone stole my wallet. (誰かが私の財布を盗んだ), ロシア語では У меня украли кошелек. (私には（誰かが）財布を盗んだ (主語がなく，動詞は 3 人称複数形))と表現するのが自然である。本研究では，言語の可変性は社会文化のあり方との間で相対化されており，伝達慣習によって選択されている」という仮説を設定し，Sapir の *Language* (1921) 以来絶えず探求されてきた言語と認知や思考との関係性の解明に着目し，認知類型論的アプローチから，どの把握の仕方における意味づけがもっとも自然か，言語間の差異を明らかにする。

２．研究の目的

本研究は，言語の「自然さ」，「～語らしさ」ということはどういうことかについて理論化し，説明を試みるものである。具体的には，日露語の「好まれる言い回し」について考察した Soejima (2014) の成果を発展させ, 日本語と類型論的に近いとされる韓国語におけるアスペクト・ヴォイスの現象について，記述文法書，同じ内容が各言語で翻訳されたパラレルコーパスによる用例，母語話者への調査などから資料を収集し，種々の構文の文法的意味の多機能的拡張について意味と機能と構造の面から有機的・相関的に特徴づけて検証し，明らかにする。その成果を認知類型論の発展に資することを目的とする。

３．研究の方法

本研究では，上述した目的を達成するため，具体的には主要部後置型の文法的特徴を有する日本語と韓国語やエストニア語，トルコ語におけるアスペクト・ヴォイスの現象について，両範疇にまたがる構文の形式と意味の関係はどうなっているか，また言語間でどのような構文の分布パターンが見られるかを，韓国語を中心に日本語やロシア語と比較し，検証した。

研究方法：①文献資料からの用例収集，②パラレルコーパスからの用例収集，③母語話者への聞き取りによる用例収集，④収集したデータの分析と意味地図の記述，⑤母語話者への使用意識調査，⑥認知様式や伝達慣習との関連性の分析・検証

４．研究成果

(1) 研究の主な成果

①多言語パラレルコーパスの電子化

近代から現代にかけての文学作品のうち，日本語から多言語へ翻訳されたもの 2 作品，ロシア語から日本語へ翻訳されたもの 1 作品の計 3 作品の小説を完全に電子化した。これらは意味内容がほぼ等しいと考えられる文に対応関係を「タグ付け」してあるが，必要に応じて検索・利用できる形でデータベース化することを検討中である。『ノルウェイの森』についてはトルコ語訳の電子化の作業もほぼ終了しつつある。

表 1. 多言語パラレルコーパス一覧

1. Солженицын, А.И. «Один день Ивана Денисовича» (ソルジェニーツィン作『イワン・デニーソヴィチの一日』)とその日本語訳
2. 太宰治『人間失格』とその韓国語訳
3. 村上春樹『ノルウェイの森』とそのロシア語訳・韓国語訳・エストニア語訳（4 カ国語パラレルコーパス）

②日本語学習者の「動作主不定の人為的事態の表現」使用について

ここでは，動作主が不明か大事ではない場合の，人による行為の結果の状態の表し方が言語間でどう違うか，という問題を，日本語学習者がそれを母語でどのように理解しているかを分析することで明らかにする。

②-1. 研究課題

受動の不完結の文とシテアル構文と自動詞の不完結の文について，

I.　日本語学習者はこれらの表現をどの程度理解し，使用しているか

II.　同じ結果の状態を描写する際，留学生の母語ではどのような言い方が自然か

②-2. 研究データ

課題解決のため，日本に留学している上級レベルの日本語学習者にたいしアンケート調査を

行った。調査票には，例えば受身文やシテアルなど結果の状態を示す例文を日本語で提示し，母語に自然訳してもらった。調査対象者ではない母語話者とともに正誤を判断し，理解度，使用度分析のデータとした。

②-3. 分析

調査結果は表 2 に示したとおりである。言語によって回答者数が異なる（最低：2 名，最高：9 名）が，その結果は一定の傾向を示すと考えられる（自＝自動詞構文が自然，他＝他動詞構文が自然，受＝受動構文が自然，×＝その他の表現が自然)。

表 2.「結果を表す表現」にかんするアンケート調査

		日本語		中国語	タイ語	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ語	英語	ﾛｼｱ語	韓国語
シテイル（自動詞）	1	かばんが開いていますよ		自	×	受	×	受	受
	2	そのいす，壊れてるよ		自	自	受	受	受	受
	3	電気がついています		自	自	受	×	自	受
	4	壁に絵がかかっている		他	自	受	×	自	受
シテアル	5	(ｾﾛﾃｰﾌﾟは)引き出しにしまってあるよ		他	×	×	受	×	×
	6	ｶﾚﾝﾀﾞｰに今月の予定が書いてあります		他	他	受	受	受	受
	7	机の上にメモが置いてあった		他	他	×	受	他	受
	8	窓が開けてあった		自	他	受	×	受	受
サレテイル	9	皿が割られていました		自	自	受	受	受	受
	10	交番に町の地図が貼られています		他	他	受	受	受	自
	11	三の丸は土塁と水堀に囲まれていた		受	他	受	×	受	受
	12	ダンボールに子猫が捨てられていた		受	受	受	受	×	受
	13	正面の棚に人形が飾られていた		他	他	受	×	受	受
計	シテイル 4 シテアル 4 サレテイル 5		自	5	4	0	0	2	1
			他	6	6	0	0	1	0
			受	2	1	11	7	8	11
			×	0	2	2	6	2	1

②-4. 結

(I) ポルトガル語，英語，ロシア語，韓国語は受動構文を好む。韓ロ語は自動詞も使う。
(II) 中国語やタイ語は受動構文よりも主語のない能動構文や自動詞を好んで用いる傾向にある

③動作主不定の人為的事態またはその結果の表現と認知様式との関連性の分析・検証

ここでは，アスペクトとヴォイスという 2 つの範疇を融合的に眺め，機能意味論的な観点から韓国語とロシア語と日本語を解析し，普遍性と可変性の検証を進めた結果を報告する。調査対象としたのは動作主不定の人為的事態を表す現象である。

③-1. 問題の所在

③-1.1.動作主が不特定の人為的行為を表す表現

動作主が意図的に行った行為を表す場合，日本語では自然作用が感じ取れれば，「ナル的言語」（池上，1981）である日本語は自動詞が用いられる。一方，人為作用が明らかに感じられる場合には自動詞の他に「動作主の非焦点化（Givón, 1981）」機能の受動文も可能である。このように日本語では，動作主が不特定の人為的行為を他動詞で表現するには受動文の不完結(Imperfective)が用いられる。また，「皿が割ってありました」とシテアルを使うこともできる。

③-4. 研究課題

人為的事態の過程や結果を描写する際，

I. 日本語，韓国語，ロシア語ではどのような言い方が自然か
II. その使用傾向においてそれぞれの言語に違いが生じる理由は何か

③-5. 研究データ

日本の小説 1 編，村上春樹著『ノルウェイの森』とその韓国語翻訳本，ロシア語翻訳本の計 3 編を使用した。これを選んだのは，有名な作品であり，韓国語とロシア語の翻訳が市販されていて，テキストが公に認められたものであることと，情景の描写が多く，分析の対象とする結果状態の場面が多く描かれているからである。日本語版においてシテイル（受動文のシテイルも含む）とシテアルの文を同定した。それを基準に動作主が不定の人為的事態の結果を表している場面だけを取り出し，対応する韓国語やロシア語の文と共に分析の資料とした。

③-6. 1. 結果

表 3. 日韓露語の人為的事態の結果の状態を表す場面における構文の分布状況（下段は%）

	他動詞		自動詞	その他	計
	受動形	シテアル			
日本語	34	47	154	0	235
	14%	20%	66%	0%	100%
韓国語	82	0	72	81	235
	35%	0%	31%	35%	100%
ﾛｼｱ語	61	0	64	110	235
	26%	0%	27%	47%	100%

表 3 に示したとおり，日本語では自動詞の使用が 66%とほぼ 3 分の 2 を占めて多く使用されていた。シテアル構文の使用は 20%とあまり多くなく，受動文の使用はさらに少なく，14%だった。韓国語は，受動文とその他の表現が 35%でほぼ同程度，自動詞の使用も 30%が見られた。ロシア語は受動文が 26%，自動詞文が 27%見られ，最も多かったのはその他の表現で 47%だった。受動文だけを見ると韓国語が最も多く使用されており，ロシア語では結果の状態を表すのに様々な表現が可能であることが窺われる。

③-6. 2. 分析

③-6. 2. 1. （状態） 受動文

日本語では受動文で表現された全 38 場面において選択された構文のうち，受動文は，韓国語では 53%，ロシア語では 44%と韓国語のほうが多く，自動詞文はロシア語が 6 場面，韓国語が 5 場面とほぼ同程度であった。

■ 受動文

(1) 人影はなく，どの窓もカーテンが<u>引かれていた</u>。

韓：사람 그림자는 보이지 않고 하나같이 창에는 커튼이 드리워졌다.
salam keulimcaneun poici anhko hanakath-i, chang-eneun kheoteun-i teuliwo-*cye*-ssta.
人 影は 見えず 一様に 窓には カーテンが 引く-cita-た

露：Людей видно не было, и на всех окнах **были задернуты** шторы.
ljudej vidno ne bylo, i na vecx oknax byli zadernuty štory.
人々（生）見えなかった そして 全部の窓に 繋辞 引く(被形過) カーテンが

■ 自動詞

(2) だからこうした家並みがそのままに<u>残されている</u>のだ。

韓：그래서 이런 집들이 그대로 남은 것이다.
keulaeseo ileon cipteul-i keutaelo nam-eun keos-ita.
だから このような 家並みが そのまま 残る だろう

露：Потому, видно, и стояли эти дома нетронутыми.
potomu, vidno, i stoiali èti doma netronutymi.
だから だろう そして 立っていた この 家々（主）そのまま

③-6. 2. 2. シテアル

日本語ではシテアルによって表現された場面は 47 あった。韓国語ではそのうち 36%が受動文，17%が自動詞文，ロシア語は 45%が受動文，23%が自動詞文で表された。

■ 受動文

(3) ベッドのわきには...，白いコートが椅子の背に<u>かけてあった</u>

韓：침대 곁에는 ... , 하얀 코트가 의자 등에 걸렸다.
chimtae kyeot-eneun ..., hayan koteuka uica teung-e keol-*lye*-ssta.
ベッド そばには 白い コートが 椅子 背に かける-i/hi/li/ki-た

(4) 「それ<u>洗ってある</u>から食べられるわよ」

露：Он **мытый**, можешь прямо так есть.
On mytyj, možeš' prjamo tak est'
それ（主）洗う(被形過) できる すぐ そうやって 食べる

■ 自動詞

(5) 机の前の壁にはカレンダーが<u>貼ってあった</u>。

韓：책상 앞 벽에는 달력이 붙었다.
chaeksang app pyeok-eneun tallyeok-i puth-eossta.
デスク 前 壁には カレンダーが 貼りついた

露：На стене перед столом **висел** календарь.
Na stene pered stolom visel kalemdap'.
壁に 前 机（造）かかっていた カレンダー（主）

③-6. 2. 3. 自動詞文

日本語で自動詞が用いられた全 154 場面のうち，韓国語とロシア語ではどのような構文で表現されているかを示すと，韓国語では約 4 割 （38%）が自動詞文，約 3 割（31%）が受動文が選択されている。それに対してロシア語では，約 4 割（38%）が自動詞文であるのは韓国語と同様であるが，受動文は 16%と韓国語の約半数であった。

■ 受動文

(6) ロウソクが消され，居間の電灯も消えていた。

韓：촛불은　꺼지고　거실　전등도　꺼졌다.
chospul-eun　kkeociko　keosil　ceonteungto　kkeo-*cye*-ssta.
ろうそくは　消え　居間　電灯も　消す-cita-た

(7) ほら、地図を買うと小冊子みたいなのがついてるでしょ？

露：Карты　когда　покупаешь, к ним же　**прилагаются**　такие　типа　памфлеты?
karty　kogda　pokupaeš’,　k nim že　prilagajutsja　takie　tipa　pamflety?
地図(対)とき　買う　それに　つける-再帰　そのような 種類(主) パンレット(生)

■ 自動詞

(8) 螢はインスタント・コーヒーの瓶に入っていた。

韓：그건　인스턴트커피　병　들어　있었다.
keukeon　inseutheontheukheopi　pyeong-e　teul-eo　iss-eossta.
それは　インスタントコーヒー　瓶に　入って　いた

露：Светлячок　**сидел**　в банке　из-под растворимого кофе.
Svetljačok　sidel　v banke　iz-pod rastvorimogo　kofe
蛍は　座っていた　瓶に　インスタントコーヒーの

③-6. 2. 4. 「その他」の表現

受動文や自動詞文以外の「その他」の構文選択が，韓国語では 81 場面，（35%），ロシア語では 110 場面（47%）を占めた。「その他」には自動詞以外では他動詞が能動文として用いられたり，目の前に存在することだけを示す存在文が用いられたりしている。全 235 場面における存在文の使用については，ロシア語が 38 例（17%），韓国語が 30 例（13%）であり，ロシア語のほうが若干多い。

③-6. 3. パラレルコーパスに見られる受動文選択の特徴

1. 日本語も韓国語もロシア語も受動文や自動詞文を用いる。
2. 日本語はシテアル構文も用いる。
3. 韓国語やロシア語は他動詞の能動文や存在文を用いることもある。
4. 日本語は自動詞使用が 6 割以上で，事象を内側から眺めて示すことを好む
5. 韓国語は受動文使用が 35%，位置変化の原因に着目して示すことを好む
6. ロシア語は受動文使用が 26%，動作主の行為に着目して示すことを好む

③-8. 結

動作主が不特定の人為的事態を表す場合，

(I) 日本語は，明確な動作主の存在を前提としない自動的表現が多く用いられることから，主観的把握を好んで表現する傾向にある。

(II) 結果の状態を受動文で描写する場合，韓国語は位置変化の原因に着目して受動文を選択する傾向があり，ロシア語は動作主の行為を前提として選択する傾向にある。両言語とも日本語より客観的描写を好む。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

コーパス研究が盛んな今日でも 3 言語以上にまたがる多言語のパラレルコーパスはまだまだ希少であり，1 作品とはいえ，日本語，ロシア語，韓国語，エストニア語のパラレルコーパスを構築できたことは，今後の対照言語学的研究をはじめ類型論的研究など言語研究に供する資料となり得るものである。

本研究課題においては，日韓露語パラレルコーパスを資料として行った検証の結果，動作主不定の人為的事態またはその結果という同一場面においてロシア語は能動文，不定人称文，完結の受動文，韓国語は受動文や自動詞で示すのにたいし，日本語は不完結の表現 (シテアル，サレテイル) で示し，自動詞文も好んで選択することを明らかにした。これら構文の意味・機能を Uehara (2006) の主観性のスケールを援用し図示したのが図 1 である。ここから日本語はロシア語や韓国語に比べ事態をより主観的に把握し，表現する，ということを主張した。

この結果は，「言語の自然さ」，「～語らしさ」が認知類型の違いで説明できる可能性を示唆するものであり，認知類型論の発展に資するものと言える。

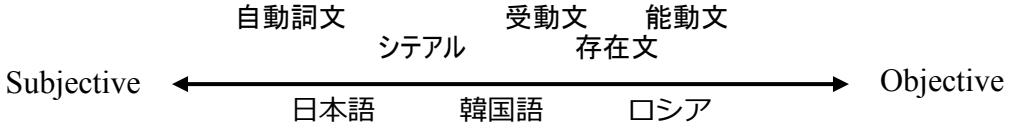

図 1. 結果表現における主観性の尺度

(3) 今後の展望

当然ながら日韓露 3 言語だけではその特徴は相対的なものに過ぎず，一般化するには不十分である。今回構築したエストニア語のコーパスやほぼ完成に近づいているトルコ語コーパスも

加え，様々な言語の構文選択の傾向を探ることで，主体・主観化現象にかかわる認知様式のあり方の類型化が可能になり，より精緻に検証ができると考える。

主要部後置型言語以外の言語にかんしても同様に同一場面においてどのような構文が選択されるか，という観点から分析を行いたい。今後は日本語と形態的類型も語順も異なる，孤立語で SVO 型言語の中国語，タイ語，ベトナム語の 3 言語を考察の対象に加え，日本語との文法的特徴の相違の度合いが事態把握にどう関係しているかという観点から研究を進める予定である。

〈引用文献〉
① 池上 嘉彦（1981）『「する」と「なる」の言語学―言語と文化のタイポロジーへの試論―』大修館書店
② Givón, Talmy. (1981) “Typology and functional domains.” *Studies in Language*, 5 (2): 163-193
③ Soejima, Kensaku. (2004) “On expressions of agent de-topicalized intentional events: A contrastive study between Japanese and Russian.” *Journal of Japanese Linguistics*, 30: 115-136.
④ Uehara, Satoshi. (2006) “Toward a typology of linguistic subjectivity: a cognitive and cross-linguisitc approach to grammaticalized deixis.” In: Angeliki Athanasiadou, Contas Canakis, and Bert Cornillie (eds.) *Subjectification: various paths to subjectivity*, 75-117. Berlin: Mouton de Gruyte.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 5 件）

① 副島 健作，日本語とロシア語と韓国語の「好まれる言い回し」―人為的事態の結果状態を示す表現を比較して―.［国際文化研究科論集, (26), (2018), 67-79］査読有
② 副島 健作, 人為的事態の結果の「好まれる言い回し」―日本語と韓国語の自動詞表現と受動表現―.［東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要, (4), (2018), 177-190］査読有 https://tohoku.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=125689&file_id=18&file_no=1
③ 副島 健作, 日本語学習者は「動作主が不特定の人為的事態」をどう捉え，どう表すか.［比較文化研究 久留米大学 比較文化研究所, (53), (2018), 62-81］査読有
④ 副島 健作, 日本語学習者の「動作主が不特定の人為的事態の表現」使用について.［東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要, 3, (2017), 147-157］査読有 https://tohoku.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=123537&file_id=18&file_no=1
⑤ 副島 健作, 若者の地方共通語使用に関する一考察 ―沖縄地域のアスペクトの使用意識調査から―.［東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要, (2), (2016)］査読有 https://tohoku.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=123507&file_id=18&file_no=1

〔学会発表〕（計 6 件）

① Soejima, Kensaku, “How Do Japanese Language Learners Understand 'the Other' in the Result Expressions?,” Colloque 'Les Valeures de l'Autre', Grenoble Alpes University, Grenoble, France, March 7, 2019.
② 副島 健作,「日本語と韓国語とロシア語の「好まれる言い回し」―人為的事態の結果状態を示す表現を比較して―」CAJLE-カナダ日本語教育振興会 2018 年次大会, Annual Conference 2018, Huron University College in London, Ontario, Canada, August 22, 2018.
③ 副島 健作,「日本語学習者は「動作主が不特定の人為的事態」をどう捉え，どう表すか」『日本研究所』創設記念シンポジウム 非西欧社会の近代化再考:日本とアラブ(エジプト)の場合, Cairo University. Giza, Egypt, July 15, 2017.
④ 副島 健作,「人為的事態の結果の「好まれる言い回し」―日本語と韓国語の受動文とアスペクト―」第 10 回 日本語実用言語学国際会議 (ICPLJ10), 2017 年 7 月 9 日 於国立国語研究所（東京都立川市）
⑤ 副島 健作,「韓国語を母語とする日本語学習者の「動作主が不特定の人為的事態」の表現」ICJLE2016 年日本語教育国際研究大会, Bali Nusa Dua Convention Center(BNDCC), Bali, Indonesia, September 10, 2016.
⑥ 副島 健作,「日本語の「動作主が不特定の人為的事態」の表現―ロシア語の不定人称文との比較をかねて―」日本語学会 2015 年度秋季大会, 2015 年 10 月 31 日 於山口大学（山口県山口市）

６．研究組織

(1)研究代表者

副島 健作（SOEJIMA Kensaku）
東北大学 ・ 高度教養教育・学生支援機構 ・ 准教授
研究者番号（8 桁）: 60347135